

今伝えたいことがある

11月3日に中央公民館で行われた第29回鞍手町「少年の主張」大会。
町内の小学5・6年生、中学生の代表がそれぞれに自分の思いを主張しました。
その中から最優秀賞に選ばれた3つの作品を紹介します。

5年生の部

主張した子どもたち(敬称略)

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 植松 香恋 (西川小) | ・言葉のナイフ |
| 原 七海 (剣北小) | ・大好きな鞍手町を、もっとステキな町にするために |
| 毛利 雄斗 (古月小) | ・米(マイ)プロジェクトに挑戦 |
| 大瀬戸りか (剣南小) | ・身近な自然の豊かさを大切に |
| 木村菜々美 (室木小) | ・マナーを守ることができる大人へ |
| 大山 璃子 (新延小) | ・仲間とともに |



後列左から 原 七海 (剣北小)・毛利雄斗 (古月小)・木村菜々美 (室木小)
前列左から 大山璃子 (新延小)・植松香恋 (西川小)・大瀬戸りか (剣南小)

6年生の部

主張した子どもたち(敬称略)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ・ひいおばあちゃんからのプレゼント | 室原 千紘 (西川小) |
| ・ドッチボールから学んだこと | 兼竹 龍星 (剣北小) |
| ・平和のバトンリレー | 大村 駿介 (古月小) |
| ・命の重みを考えよう | 香月 理沙 (剣南小) |
| ・あいさつを通して人とつながろう | 井ノ上健吾 (室木小) |
| ・伝統を引き継いで | 日高 悠誠 (新延小) |



後列左から 井ノ上健吾 (室木小)・大村駿介 (古月小)・兼竹龍星 (剣北小)
前列左から 日高悠誠 (新延小)・室原千紘 (西川小)・香月理沙 (剣南小)

中学生の部

主張した子どもたち(敬称略)

- | | |
|----------------|---------------|
| 木村 百花 (鞍手南中1年) | ・当たり前とは |
| 荒川 美悠 (鞍手北中1年) | ・自分の発言に責任を |
| 溝口穂乃果 (鞍手南中2年) | ・尊い命を守る思いやり |
| 大山 竜輝 (鞍手北中2年) | ・生きることを教えられた日 |
| 松村 望友 (鞍手南中3年) | ・愛が導く正しい明日へ |
| 盛田 秀 (鞍手北中3年) | ・ヘイトスピーチ |



後列左から 荒川美悠 (鞍手北中)・大山竜輝 (鞍手北中)・盛田 秀 (鞍手北中)
前列左から 木村百花 (鞍手南中)・松村望友 (鞍手南中)・溝口穂乃果 (鞍手南中)





植松香恋さん

(西川小学校)

※主張を終えて…主張大会に出ることが決まったときは嬉しい気持ちでいっぱいでした。練習は大変でしたが、クラスみんなが応援してくれたので励みになりました。最優秀賞をもらうことができ、本当に発表してよかったです。

◎5年生の部 最優秀賞 ＊言葉のナイフ

チン。お母さんの泣き顔が見えたと同時に、突然ほったたかれた。私は、学校の帰りがけ、弟とその友だちに「キモイ」という言葉を投げかけてしまったのだ。私は、それがいじめだと思わずに友だちに嫌なことを言っていたのです。

その夜、母はすごく怒って、そして涙を流しながら私にこう言いました。

「あなたの言った、キモイって言葉は、自分が言われて嬉しい言葉なの？」

実は私は、ふとした友だちとのやりとりの中で「キモイ」と

という言葉を何気なく、使ってしまったのです。そのことがあり、母が私をたたいてしまったのでした。

しかし、そんな中でも、「なぜ、私は怒られているの？」

「どうして、お母さんは泣いているの？」

と思っていました。というのは、まだそのときは、いじめだという認識はなく、私はむしろ、母からたたかれたことに納得はしていませんでした。

友だちに謝りに行った夜、家に帰って、母と父とたくさん話をしました。そしてそ

で、母が小学生の頃、いじめにあっていたという事実を初めて知ったのでした。そのときの母のつらい気持ちは、大人になった今でさえ、忘れていないそうです。それだけ心が傷つき、いまだに苦しんでいる母の姿を目の当たりにして、私の心に、後悔の念がわき出てきたのです。

今、この地球上には未だに無くならないいじめで苦しんでいる大人や子どもがたくさんいます。いじめによって、自分の命を絶つてしまう人がいると聞きます。

人は自分と同じじゃないと、相手のことを理解できず、仲間はしをしたり、傷つく言葉をぶつけたりしてしまうことがよくあるのです。それも、ある日突然に……。

そんな私を見て、母がそのときの担任の先生から教わった「自分が言われていやなこととは人に言っははいけません」ということを伝えてくれました。それを聞いて初めて私は、自分が言った言葉が、相手を傷つける言葉で、相手にとつて、つらいことであることに気付いたのでした。そして、さらに母は念を押すように、私にこう言ったのです。

「これは立派ないじめです。いじめは、どんな小さなことでも、された人がいやだと感じたときがいじめたことになるんだよ。」

しかし、自分と違う考えを持っているからこの人はだめだ……と思うのではなく、それがその人の個性だとみんなが思っていけばよいのではないのでしょうか。

私はここで、いじめゼロ宣言をしたと思います。

一つ、いじめをしないといふ私の思いを周りの人へ広げていきます。二つ、人からいやな言葉を言われたとしても、私は言い返さず、話して分かってもらえるようにします。そして私は、心から誓います。決して、言葉のナイフを使わないことを……。

たたかれて痛かった……でもこの痛みは、数十秒で消えてしまいます。私がひどいことを言った友だちは、ずっと痛みは消えない、という母

審査委員長（教育長）の講評

最優秀賞3名の皆さん、優秀賞15名の皆さん、本当に素晴らしい発表をありがとうございました。皆さんは発表者としての指名を引き受けて、身近な題材や関心を持った題材をまとめ、自分の言葉でスピーチをされました。これは大人でもなかなかできることではなく、努力してこの場に立った経験が役に立つ日がいずれやってくると思います。

皆さんのスピーチから教えられることがたくさんあり、町民の研修の場となった、そんな大会であったように思います。

第29回、鞍手町「少年の主張」大会が素晴らしい大会となりましたことを心から感謝申し上げます。

◎6年生の部 最優秀賞

＊ひいおばあちゃんからのプレゼント



室原千紘さん
(西川小学校)

＊主張を終えて…大会前夜は、緊張感や練習からくる疲れもあり、思っていたよりもぐっすり眠ることができました。発表のときはとてもドキドキして、まさか最優秀賞をもらえるとは思っていませんでした。

「どくどくどく」
私の心臓の音です。命の音です。

みなさんは命について考えたことがありますか。私は命について考えさせられる悲しい出来事がありました。今年のお正月に大好きなひいおばあちゃんが亡くなってしまったのです。

ひいおばあちゃんは、何年も前から足が悪く車いすに乗っていて、私の家からは少し遠い老人ホームに入っていました。ひいおばあちゃんには、子ども、孫、ひ孫を合わせる三十人以上もいて、顔は分かって名前まではな

なか出てこないようでした。でも、私の名前だけは必ず覚えてくれていて、

「ちひろちゃんよく来たね。」
と言ってくれました。一緒に花火大会を見たり、お手紙を交換したりしていました。そんな大好きだったひいおばあちゃんの具合が悪いと聞いたのは、一月一日の夜遅くでした。胸がどきどきしました。急いで会いに行きました。おばあちゃん、まるで眠っているように亡くなっていました。いつもは私に、

「ちひろちゃんよく来たね。」
と言ってくれたのに、その言

葉ももう聞くことはありません。私は胸がいっぱいになって泣きました。みんなも泣いていました。するとだれかが、「みんなが集まるお正月よかったですね。」

と言いました。そう言われてもう一度見るひいおばあちゃんの顔は、みんなに囲まれて、とても幸せそうでした。

九十六歳まで長生きでき、みんなに大切にされていたひいおばあちゃんでしたが、お葬式の時話を聞くと、いろいろな苦勞をしてここまでできたことが分かりました。

三歳ぐらいのとき、お母さんを亡くしてお寺の養女になったということ。おじさんとおばさんが厳しく、家の手伝いや畑仕事をし、大変だったこと。戦争中はたくさんいた子どもに食べさせるものが無くて困ったこと。そんな一つひとつの苦勞の波を乗り越えて、ひいおばあちゃんは一

生懸命頑張ったそうです。自分が苦勞したからこそ周りの人の幸せを願う優しいひいお

ばあちゃんだったと思います。私にも優しさをたくさんプレゼントしてくれました。私

が生まれるときにも、無事に生まれてくるように毎日拜んでくれました。交換した手紙にも、「元気でいてね。」や「事故に気をつけて。」などのメッセージがいつもありました。

私はとても悲しかったけど、ひいおばあちゃんが苦勞して生きてきたことでつな

がったこの命を大切にしながらはいけないと感じました。

今、世の中では自ら命を亡くす人がいます。命は自分だけのものではないことをひいおばあちゃんの死は教えてくれました。たくさんのおばあちゃん先祖が苦勞を乗り越えて命のバトン

を回してくれたものだという

らったこのプレゼントを持って、今からもしっかりと走っていきたく思います。



連

日、数多くの殺人事件や自殺行為が報道されています。

また、先日の広島県の土砂災害、御嶽山の噴火のような自然災害などで亡くなる方もいます。その中で特に私が心を痛めたのは、今年の七月に長崎県佐世保市であった女子高生が友だちを殺害した事件です。

被害者の後頭部を工具で複数回殴り、犬用のリードで首を絞めて殺害。死因は頸部圧迫による窒息死。遺体は、頭と左手首が切断。胴体にも刃物による傷あり。なぜ、このような残酷なことを仲の良かった友だちにしたのか、同世代の私ではありませんが、全く理解できず、憤りを感じました。

私は、加害者の家庭環境がどのようなものだったのかを調べてみました。父親は弁護士で、加害者はマンションでの一人暮らし、という裕福な生活でした。しかし、実の母は昨年病気で亡くなり、父親は再婚。しかも、先日加害者の父親は、自ら命を絶ったそうです。加害者は、母を亡くし、父までもこの世からい

なくなつたのです。加害者の親は、生き抜いて、加害者と共に罪を償い、共に更生していく事が親としての愛情であり、務めではなかったのでしょうか。とても残念です、悔しいです。

私は、この事件の加害者の子が、まわりの人たちからたたくさんの愛情をもらい、健全な関わり方をしてもらっていたら、このような残酷な事件を、起こさなかつたのではないかと思います。

私は、すべての殺人事件が、愛情不足で起こつたと言っているわけではありません。しかし、たまたまそこにいた人を巻き込んだ無差別殺人やバラバラ殺人などは、普通感覚を持つていたら絶対にできません。一番悪いのは本人ですが、親や周りの人たちからの日頃の生活の中で愛情に基づいた「良いことは良い、悪いことは悪い」と注意、指摘をする、毅然とした態度が不足していたのではないのでしょうか。

私は、二歳の頃から母と二人だけで生活しています。私は、両親揃って暮らしている友だちを幼い頃は、よく羨ま

しく思っていました。正直、今でも時々、「お父さんとお母さんと私が一緒に暮らせたらなあ。」と思います。しかし、私は母や祖母、親戚の人たちからたたくさんの愛情を注がれ、たくさん可愛がってもらっています。私のそばには友だちや先生もいます。

私の母は、私が四歳の頃に無理が重なって重い病気を患いました。仕事をするのは、医者に無理と言われながらも、私を育てるために、毎日休まず仕事に行っていました。そのため、休みの日などは公園などで一緒に遊ぶこともできませんでした。

母は、今でも月に何度か病院に行っていますし私が休みの日には、必ず一緒に行っています。その時に、とても元気があり、とても優しく接してくれる看護師さんに出会いました。私は、この看護師さんのような、多くの人の病いやケガに寄り添い、元気や勇気をあげられる人になりたいです。私の夢は、看護師になることです。私は、自然災害などの現場にも行き、被害にあわれた方々を医療活動だけでなく、精神面でも支えてい

きたいのです。私は、たくさん優しい人々と接して成長してきました。決して私は、裕福な暮らしではないですが、私にとって「家族」が一番大事なかけがえのない存在です。家族の命も、他の人の命も大切にす。今ある命を輝かせ、一日一日を大事に過ごしていったら、皆が幸せな人生を送ることがができるのではないのでしょうか。少なくとも私は、そう信じて生きます。全ての人が幸せな人生を歩めるように、自分のできることを考えていきます。一日でも早く人の命が軽んじられる、胸が痛くな

*愛が導く正しい明日へ

●中学生の部 最優秀賞



松村望友さん
(鞍手南中学校3年)

*主張を終えて…まさか私がこの場に立つことになるとは思っていなかったので、決定したときは不安な気持ちで一杯でした。最優秀賞をとれたのは熱心に指導してくれた先生や応援してくれた家族、友だちのおかげです。ありがとうございました。

るようなニュースが無くなることも、心から願っています。